

発行所

静岡県高等学校障害児学校教職員組合
静岡市葵区駿府町1-12
高教組新聞編集委員会
http://www.s-koukyousho.jp/
e-Mail info@s-koukyousho.jp
TEL (054) 254-6900
FAX (054) 254-0814
Facebook:「静岡高教組」で検索

第443号
2019年
4月24日

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、全教職員に配布しています

あなたも高教組へ

2面・青年部 コミュカフェ
・女性部 育休復帰応援カフェ



新たな人事評価制度本格実施、多忙解消、新たな任用制度、部活動ガイドライン... 課題山積み 教育長交渉

人事評価の結果を勤勉手当に反映させる制度が本格実施され、「働き方改革」にもとづく「業務改善プラン」が示され、臨時的任用教職員を正規の任期付職員に、非常勤講師を会計年度職員にするなど、大きな変化の年度になりそうです。静岡高教組は、これらの課題に関して要求書を提出し、4月26日に教育長交渉を行います。

次の要求を重点に交渉
215月分の期末・勤勉手当が支給されますが、月額40万円なら、BとAとの間に約2.4万円、Sとはその倍の差がつき、Cは8万円以上減額される制度を県教委は設計中。

◎「新たな人事評価制度」の廃止。
◎多忙解消・定数改善。
◎育休代替配置の要件緩和。
◎常勤講師の正規採用促進。希望者全員の任期付職員化。
◎再任用職員の異動などについて希望尊重。
◎技能労務職員の新規採用の再開・正規配置。
◎専任・専門・正規の学校司書の配置。

1、人事評価制度
12月のボーナスでは、2.入は阻止してきました。静岡高教組は、評価結果が賃金・処遇に連動されれば、学校現場の全教職員の信頼関係・人間関係が壊され、生徒の健やかな成長を阻害し、そして学校教育そのものが破壊される危険性があるとして、いち早く評価制度の廃止、厳重な検査の向上は望めない」と、

3、多忙解消
組合の意見も取り入れ「業務改善プラン」が策定されました。「教職員に心身の余裕とリフレッシュする時間がなければ教育の質の向上は望めない」と、

5、学校司書の配置
静岡県の学校司書の配置は惨憺たる状況。事務職員の担当には無理があります。専任・専門・正規の学校司書配置を引き続き要求します。

2、臨時的任用教職員の待遇改善
長年の要求が実り、定数内常勤講師を正規化する「新たな任用制度」が6月に条例化されます。経費ある常勤講師を優先して「定年制正規職員」として採用するよう要求します。

4、誰もが働きやすい職場に
組合の要求が実現し、子育てしながらでも働きやすい環境が整いつつあります。さらに、病氣治療しながらでも働き続けられる労働環境を求めます。

主張

いよいよ今年度から、人事評価結果が勤勉手当に反映されることとなります。しかし、現場では一枚の印刷物が配布されただけで、何の説明もなされず、不安の声が広がっています。

教職員人事評価の賃金・処遇へのリンクに反対する

06年に一部試行、07年度より全校での実施が始まった人事評価制度はその目的に「資質能力の向上」「学校組織の活性化」をうたうとともに、将来的には評価を給与に反映させていく方向で研究を進めるとして、こうした動きに対し

度により反対を表明しました。各職場で反対署名にとりくむとともに、毎年アンケートを実施し、その結果を県教委に伝え、協議を重ねてきました。他県や行政が次々に賃金リンクに踏み切る中、本県教育現場への導

勤務時間の客観的な把握や外部人材の活用によって長時間過密労働を改善するとしています。「定数改善を国に働きかけるとも述べていますので、より一層運動を強めます。」
組合の要求が実現し、子育てしながらでも働きやすい環境が整いつつあります。さらに、病氣治療しながらでも働き続けられる労働環境を求めます。
静岡県の学校司書の配置は惨憺たる状況。事務職員の担当には無理があります。専任・専門・正規の学校司書配置を引き続き要求します。

新執行部と書記局

竹内 久	書記長	橋本 純
曾根香澄	副執行委員長	渥美 二郎
岩立佳絵	執行委員長	深田 祐文
杉山 操	副執行委員長	遠藤 寛
西谷俊一	執行委員	前田 浪江

高教組を元気に！ 志穂地区総会

4月5日に志穂地区総会を行いました。参加者は二十数名でした。まず、前地区長の山口さんが力を入れて取り組んだエバグリーン会の活動（川崎哲講演）を熱く報告してくれました。そして、新地区役の紹介。私は9年ぶり、2度目の地区長となります。その時に比べると、組合員の数が減り、現場の多忙化はさらに進んでいます。組織の拡大、人事評価制度の賃金リンクへの断固反対、民主的な学校づくりにより生徒の人権を守る等々課題は山積です。でもこんな時こそ、できることを楽しみながら活動し、組合の存在意義を示したいと思えます。

懇親会では、カツオにおでん、豚汁など舌鼓を打ちながら、退

賃金手帳19年度版

給与制度、諸手当、給料表などわかりやすく解説

県立学校 賃金手帳 2019年度版

静岡県高等学校障害児学校教職員組合

100円でお分けします。

賃金手帳19年度版

給与制度、諸手当、給料表などわかりやすく解説

県立学校 賃金手帳 2019年度版

静岡県高等学校障害児学校教職員組合

100円でお分けします。

視座

大嫌いなことが二つあったんです。朝早く起きること、走る事です。この冬、ある生徒に言われたんです。一緒に走りましょう。週三回、朝、数人で走ってるんだとか。もちろん、断りました。しかし、その生徒は諦めず、他の生徒も走ろうと誘って来ました。あまりにしつこいので、一度つきあうことにしました。寒い朝、グラウンドを数人で固まっておしゃべりしながら、ゆっくと、20分走ったんです。目の前にあるのは壁ではなく扉。これは、最近見つけた好きな言葉。まさに、その瞬間でした。とても気持ちよかったです。翌日、筋肉痛になりましたが、早起きして走ることが大好きになりました。壁をつくって、走るのは、実は自分。ぶつかってみれば、扉だったります。そして、その扉を開ける鍵は、出会い。決して一人では開けられないようです。さて、この春の人事異動で、もうその生徒達と走れなくなってしまうかもしれませんが、今もほぼ毎日、早起きして、近所を走っています。生徒達に壁を扉に変えてもらったことを感謝しながら。さ、この春、またどんな出会いが待っているのでしょうか。まだ緊張しつつも、楽しみな四月です。あ、マラソン大会でも出てみようかな。

青年連絡会主催

つなごう、つなごろう、ふかめよう
「コミュカフェ」

～ Talk with ALT ～



今年度の青年部では、「つなごろう、つなごろう、深めよう」をテーマに活動しています。3月23日(土)にALT3名をゲストに招いた「コミュカフェ」を実施し、計10名の参加者が集まりました。

今回は、「初対面の人が集まりつなごろう」をテーマに「青年教職員を中心に、参加者にとつて経験の少ないことを体験する場の提供」を目的に、「太巻き作り&ランチ」「アイスブレイクゲーム」「キータイム」の内容で行いました。

太巻き作りでは、ALT3名とも日本食を作る機会ほとんど無かったそうです。好きな具材を選んで、まきすを使って巻いて…。みんなで一緒に初めての太巻き作りを楽しんでいました。昼食時には、手作り太巻きに加え、おでんも美味しくいただきました。

アイスブレイクゲームでは、学校でも使えるアキスプレイクゲーム... キルフェボンのキーを食べながら、ALTの母国と日本の文化の違いや趣味の話など、フリートークを楽しみました。



組合員でなくとも参加券1000円分は補助します。濱北特支 土井喜(青年部長)



「Everyone seemed happy to participate.」と太巻き作りの組み合わせが良かった。「アイスブレイクゲームは学校でも生かせそうだな。」

育休復帰応援カフェ(女性部主催)「不安や情報を共有できて、前向きになれた!」

3月30日に第2回「育休復帰応援カフェ」を開催しました。参加者9名、スタッフ8名、そして子ども達は13名!と賑やかな会になりました。

ハンドブックで権利の学習

今回のカフェでは、1月に実施集約したアンケートを元にまとめた「育休復帰応援ハンドブック」を活用し、部分休業や育児に関する権利や共働きの子育てのヒント等の情報共有をしました。権利学習においては、座談会では、

不安や工夫を共有

「部分休業を使っても、保育送迎後の出勤が間に合うのか心配。」「子どもが3人いるので、続けて体調を崩した場合に長く休まなければならぬのが不安。」



「週末に家事や買い物、まともな洗濯、買物、家事を頼むなど家事を工夫している。」

頑張りすぎないこと

その中で「教員は真面目な人が多く、頑張りすぎてしまう。家事で手を抜くところを抜いて頑張りすぎないことが大事!」という意見が光りました。

全教女性部総会に参加して
長年の要求活動があったから...

全教女性部総会が4月13日(土)に東京の全日本教育会館で行われました。北は北海道、南は九州からの参加があり、「学校における働き方改革について」の学習会、全教女性部の昨年度の活動の総括や今年度の方針について討議と採決がなされました。

学習会では、「1年の変形労働時間制度」の導入についての説明を聞き、学校での導入には無理があること、教育現場の仕事量と教師の人数に抜本的に手を入れない限り、過重労働は変わらないことを確認できました。

討議では、参加した各県から、妊娠教員の業務負担軽減の改善がなされた、子育て支援休暇の対象が中学生までのびたりするなど成果が発表されました。

静岡県母親大会 in 焼津 2019年5月19日(日) 10:00-16:00 焼津高等学校 多目的体育館

「日本軍兵士」 吉田裕著 中公新書

アジア太平洋戦争(1937年~1945年)での日本軍兵士の死者は、何人かを即座に答えることができる人はそれほどいないだろう。また、その最大の死因が何であったかを知る人も少ないのではないかと想像する。

その一方で、ここ数年、日本兵士の勇敢さをたたえるような、著作がいくつか出版され、兵士を英雄視し、戦争の悲惨さより、日本軍の偉大さを感じ、安心する人々が増加していると著者は言う。

待遇の悪さについて本書は、膨大な史料から丹念に拾っている。例えば、戦陣訓の「生きて虜囚の辱を受けず」という鉄則や、待遇の劣悪さ、精神疾患などによるものが多かった。

発行から1年で14万部が売れたという本書。新書本としては異例のベストセラーだ。これは、兵士たちの英雄譚が幅をきかせる状況に對抗するための論拠を求める人々が求めたと私は思う。平和を希求する人々にとって必読書である。

吉田 裕著 日本軍兵士 —アジア太平洋戦争の現実— 体験は河を語るか 悲惨な